

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしつづけることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしさ、家庭的な空間、穏やかに過ごせる時間、地域との支え合いの4つの大切を理念とし、地域の方々と関わりを持つことを特に重視し、地域密着型サービスとしての役割が果たせるよう努めている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念を意識するように、ホーム内に掲示したり、ミーティング時に唱和している。契約書等の規定も理念に沿ったものに作り替えた。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には入所時や毎月のおたより等の紙面で理念を伝えている。また、運営推進会議時に説明したり、パンフレットに掲載し、家族以外の方にも目に触れることができるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出かけ、近隣の方と挨拶や話をし顔なじみになっている。お花などを頂くこともある。	○
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭、ミニデイ等に参加し、地域交流を図っている。近所の方の訪問ボランティアをお願いしている。	○ 歩行が難しかったり、出掛ける事を嫌がったりされる方が多く、参加する人が限られている。あさぎりの家だよりの紙面の工夫や手渡しの回覧も考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	短期入所の受け入れをきっかけに地域の方の見学や相談が増えてきた。	○	地域の人が気軽に相談に訪れることができるような広報活動や雰囲気作りを行いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善計画に沿い、全職員で話し合いながら計画的に改善を行っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回を開催し、サービスの報告や評価への取り組み等を報告し意見をもらっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や地域連携推進協議会に参加している。郡内の他の市町村にもパンフレットを持参し短期入所等のサービスの広報活動を行った。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	認知症についての研修の中で権利擁護に関することについて学ぶ機会があり、研修結果を職員に伝えている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングを利用し虐待について話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、特に理念、利用料金、リスク、医療連携、退所の要件等について詳しく説明し、同意を得るようにしている。また、必要に応じて再度説明を行うこともある。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の声に耳を傾け、必要時はミーティングを行い早めの対応を心掛けている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回のお便りに身体状況、生活状況、金銭管理等を報告している。家族の訪問時には、生活の様子を伝えるようにしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族には手紙や訪問時、電話等で常に問いかけ、何でも言えるような雰囲気づくりに努めている。個別介護計画を提示し家族の意見を伺っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃からコミュニケーションを図り、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。皆で話し合ったほうが良いと思えば、ミーティングを行い全員の意見を聞く機会をもつようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>管理者は通常のシフトに入れてない為、利用者の状態変化に対応できている。柔軟な体制が取れるよう、余裕をもった人員が確保できている。利用者の状態によって勤務時間の変更を行う等臨機応変に対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者1人に2人の担当を割り当て、担当者を中心にケアの統一をすすめており、離職があっても利用者のダメージを少なくする配慮をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修に順番に参加し、なるべく全員が参加できるようにしている。また、毎月のミーティング時に研修報告を行い、全員で共有するようにしている。	○	事業所内での学習会を開催したい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの管理者と意見交換を行っている。研修会などで同業者の方と話をする機会をもつように努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	メンタルヘルス健診を実施し、職員のストレス度を評価し対応している。職員が利用者と離れ一息入れる休憩の時間や場所を確保している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ヘルパー、介護福祉士等の資格取得を勧めている。勤務希望は可能な限り希望に沿うようにし、働きやすい環境づくりに努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人と面接をし、不安や求めていること等を把握するよう努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族と面接し、話をゆっくり聴き、家族の思いを把握するようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いや状況を確認し、サービスの提案、紹介をしている。ケアマネや病院相談員と連携し他のサービスにつなげる対応もしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族にグループホームを見に来てもらっている。短期入所を利用した本人、家族より入所申し込みを希望される方が多く、馴染みながらのサービス利用に近づいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の得意な部分を把握し、主役になれる場面を提供するように心がけている。人生の先輩であるという意識を持ち、利用者に教えてもらう場面を多くもつようにしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いを手紙や電話や面会時に家族に伝えるようにしている。外出、外泊時にはきちんと現状を伝え、起こりうることを伝えるようにしている。外出、外泊後には家族より様子を伺い、一緒に支援している関係を築くようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時には居室へ誘導し、家族とともに過ごす時間を大切にしている。5月、お盆、年末年始にはなるべく外出、外泊、無理なら面会をすすめている。生活で必要な物があつた場合、連絡し持って来てもらうようにし、面会の機会をつくっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の方であっても家族と協力し、行きつけのお店、理容院を利用できるように働きかけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者間の関係について職員間で共有し、皆で楽しく過ごす時間や気の合う利用者同士で過ごせる場面が作れるよう配慮している。問題が発生し収集つかない状況となった場合は、職員が中に入って潤滑役となることもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後の病院に面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中の会話や表情から思いや希望を把握するようにしている。時々家族の思い、希望も確認するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、生活歴や馴染みの暮らし方等の把握に努めている。入居時だけでなく家族に手紙を送り、生活歴等を記入して返送して頂くことも取り入れた。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式を使って本人の能力などを把握し、職員全員が情報を共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に複数のケア担当者を配置し、担当者を中心に個別介護計画の原案を作成し、それを元に職員全員で話し合っている。	○	家族同席の会議を開催したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎にモニタリングを行い、必要時計画の変更を行っている。計画は細かく具体的な内容となるように努めている。	○	モニタリングはケア担当者と介護リーダーとケアマネの三者でカンファレンスを行う形をとっていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の目標を立て、毎日職員が評価を行い記録に残している。それを元にモニタリングを行っている。	○	時間に沿っての記録だけではなく、本人の言動、様子、職員の対応、対応後の利用者の反応、様子を記入する事も検討している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診の介助や緊急時の受診介助を行っている。又、近くの医療機関と24時間医療連携が取れている。ショートステイの枠がある時は、在宅の緊急ショートステイの依頼にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会や民生委員、社会福祉協議会などに、必要時協力をお願いしている。舞踊ボランティアとして地域の方に協力頂いた。	○	今後も継続的にボランティアとの関わりをもちたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	自治会で開催されるミニデイサービスに参加している。地域のケアマネやサービス事業所と連携を取っている。地域ケア会議に参加することもある。利用者の希望や体調に応じて、近所の訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの所長が参加され、情報交換等協働に努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の納得頂いたかかりつけ医となっている。歯科、眼科等の専門外来はできるだけ今までかかっていた病院にかかれるよう家族と協力している。受診に付き添った職員は結果を記録し、全職員が目を通すようにしている。受診の結果は家族に報告している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々プライバシーの保護には気を配っている。利用者の事を話す時には本人に気付かれたい様配慮している。	○	個人情報に対しての職員の自覚を高めていきたい。職員が発している言葉で気になる場合は、その都度指導を行うようにしたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	定期的にミニ喫茶をし、自分の飲みたいものが飲めるように働きかけている。花の苗を購入する時は、自分で好きな物を選んで頂いている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩、レクリエーションなど利用者の希望に添えるよう配慮している。本人のペースで自由に生活をして頂いている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服の選択は本人にまかせ、できない方は職員と一緒に選ぶことができるよう支援している。理容、美容は本人の馴染みの店に行ける様努めている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じ、食材を切ったり、盛り付けや片付けを職員と一緒にやっている。季節感を大事にし献立を決めている。食事は職員といっしょにしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を把握し、病状や時間を考えた上で楽しめるよう配慮している。買い物に出た時は、自分の好きな菓子を買ってもらっている。自分の誕生日は好みのメニューにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握するように努めている。入院中常時紙パンツを使用していたが布パンツと尿パッドで対応できるようになった利用者もあった。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であり、一人一人声かけをしている。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫をしたり、気の合う人同士の入浴を勧めたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の休息パターンを把握し、安定した生活リズムが作られるよう配慮している。日中の活動量が普段より多い場合、疲れ具合に応じて休息をとって頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なこと、好きなことを把握し、得意分野で力を発揮してもらえるような場面づくりを心がけている。又、お礼の言葉がけも忘れないようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いが管理できる方は自己管理して頂いている。自己管理が難しい方でも、家族より預かったお金を渡し自分で払って頂く工夫もしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2階に居住しており階段がある為、外出には消極的になりがちであるが、天候や体調が良い時は、できるだけ散歩や買い物に行くようにしている。	○	1階にベンチを設置し、気の合う人同士がくつろげる空間をつくりたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くの場所への外出は難しいが、戸外で弁当を食べたりドライブを行っている。予め計画を立て、職員の勤務を調整し対応している。	○	入所者全員での移動は難しくなったので、今後はグループを作り個別の対応で外出できるようにしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族への電話を希望された時は、望みがかなえられるよう支援している。家族からかかった電話に自室でゆっくり話せるように支援している。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の規制はなく、訪問者の都合のよい時間帯に訪問できるよう配慮している。自室にお通しお茶等をもてなし、ゆっくり過ごせる時間を提供している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送り時、ケアを振り返り職員間で点検している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自動ロックを解除し、自由に外に出れるようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者がホールで過ごされている時は、職員間で声を掛け合い、職員1名が必ず見守りを行うようにしている。夜間は時間的に見廻りを行っている。階段を移動される時は見守りを行うようにしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全に管理できる方は、自己管理(はさみ、裁縫道具)して頂いている。掃除に使用する洗剤は、鍵がかかる所定の場所に保管している。目の行き届きやすい場所(台所等)の洗剤は日中は出している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記録し、全職員が目を通して。毎日の申し送りやミーティング時に振り返り、対応策や予防策を話し合っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急時のマニュアルを作成し、常に対応できるようにしている。その場その場で観察ポイントや予測されること、対処方法を伝えるようにしている。	○	応急手当の勉強会を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回避難訓練を行っている。自治会の防災訓練に参加している。	○	地域住民との合同の避難訓練の実現を目指したい。防火管理者講習を順次受けるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時家族に考えられるリスクの説明を行っている。又、身体状況に合わせ考えられるリスクをその時々近況報告のなかで伝えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い、顔色、表情、食事、排泄等の状況を把握し、異常の早期発見に努めている。少しでも体調の変化が見られた時は、バイタルチェックを行いかかりつけ医と相談するようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬に名前、日付を記入し、服薬までに3回以上のチェックを行い、誤薬を防いでいる。薬の説明書を個人ファイルに綴じ、入所者の薬が理解できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤は個人の状態にあわせ調節している。食事、水分摂取の工夫に努め、適度な活動を取り入れるようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き、口ゆすぎの声かけをしている。必要な人には職員が支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量のチェックや定期的に体重測定を行っている。個々の嗜好を配慮したり、食事の形態をきざみに変えたりして個別対応に努めている。関連法人の管理栄養士の献立チェックを受けている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し対応している。疥癬マニュアルはこの度見直しを行った。ノロウイルス対策としてペーパータオルを使用している。全職員の定期検診やインフルエンザの予防接種の実施をしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、ふきんの漂白消毒を毎日行っている。調理器具や食器は食器乾燥機を使用し乾燥させている。定期的に冷蔵庫、冷凍庫等の食材の点検をしている。毎日買い物に行き新鮮な食材を購入している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	2階に玄関があり入りにくいイメージを少なくするよう階段下にプランターを置いたり、玄関周りに花や飾り物を置き、温かい雰囲気を作るように努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール続きに台所があり、料理の音や匂いを感じることができる。季節毎の壁飾りや季節の花、飾り物をレイアウトし居心地のよい空間づくりに努めている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、利用者同士でくつろげるスペースとなっている。3階に談話室を設け、必要に応じ使用してもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具や日用品を持ち込んでもらい、なるべく家で過ごしていた状態に近いように心掛けている。自分の作った作品や家族、本人の写真を飾ったりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一定時間に居室、ホールの換気を行っている。冷暖房は温度、湿度計を見ながら調節している。乾燥対策として濡れた洗濯物を干すようにしている。トイレは毎日こまめに換気や掃除を行い、臭いの元を断つようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、階段等に手すりを設置している。身体状況によって、居室の入り口に手すりを取り付けている。洗濯物が自分で干せるよう室内用物干しを利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の部屋の扉の低い位置に手作りのネームプレートをかけてトイレ、浴室と区別をしている。食卓テーブルの座る位置に名前を貼ったり、座布団を置き自分の座席がわかるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関に草花を植えた鉢やプランターを飾ったり、建物の周囲に畑のスペースを確保し、楽しみながら活動できるようにしている。ベランダに鉢を置き育てている利用者もいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			○ ②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

看護師の配置、および在宅療養支援診療所との連携があり、特に医療面において24時間365日の安心を提供している。担当制、個別援助計画を積極的に取り入れ、その人らしい生活ができるよう、個々に合わせたケアが展開できるよう取り組んでいる。家族の方との連絡を密に取り、現状報告や希望などを取り入れるよう積極的に行っている。レクリエーションコーディネーターの資格を持つ職員を中心に個別レクや集団レクを定期的に導入し、余暇の充実を図っている。